

演題「ハードルを超える」

講師 スポーツコメンテーター 為末 大氏



中学生時代に陸上競技を始めてから、「世界への挑戦」まで、その時々の様子や思いを、実際のレースのDVDを用いてお話してくださいました。さらに、グローバル化する社会に出て様々な「ハードル」に直面するであろう生徒に対して、世界で戦った豊富な経験に基づく先見性に富む貴重なアドバイスをくださいました。

ご講演後、生徒からは「プレッシャーとどのように戦ったか」、「世界で戦うときの日本人(選手)の『強み』は何か」、「練習でできていることが試合でできないがどうしたらよいか」という質問や相談がありました。為末氏は、一人一人の声に大変丁寧に、生徒の立場に立って明快に答えてくださいました。

「文武両道」を校是とする本校の生徒にとって、トップアスリートによるご講演は、演題どおり世界に向かうための「ハードル」を見据え、それを超える勇気と気概が湧き出るものとなりました。

【生徒感想】

◇WORLD

- ・13年間水泳を続けた中で、小学生の時の大会で、ベストタイムを更新し、何百人という出場選手の中で20位に入ることができたことを今でも覚えています。水泳は辞めてしまいましたが、今考えるとこの大会も「小さい世界」だったと感じます。これからは、私の「小さい世界」を大きくしたいと思います。今年の12月に海外研修でシンガポールへ行きます。自分の世界を大きくする初めの一步になるよう頑張ってきます。
- ・今までは志望大学に合格するという目標しかありませんでしたが、今日の講演を聴いて、もっと高いところを目標にして、それに向かって行動しようと思いました。

◇CHALLENGE

- ・自分も陸上競技をしていました。短距離をメインの種目としていましたが、記録が伸びなかった時、先生に「400mハードルにすれば」と言われましたが、自分には種目を変える決心ができませんでした。為末さんは勝つために種目を変える決意があったことはとてもすごいと思いました。
- ・為末さんは今まで何でも成功してきたんだと思っていましたが、高校での怪我や悩み失敗そしてスランプと様々な壁を乗り越えてきて、今の栄冠をつかんだんだと知り感動しました。「敗北は行動しないこと」とおっしゃっていましたが、本当にその通りだと思います。運動に関してだけではなくて人生の中において、行動しないことには自分が望む未来が来るわけがなく、悩んでばかりいたり、失敗を恐れるよりも、まず行動することが大事だと思います。プレッシャーに勝つには一つ一つのことを意識しすぎるのはだめだということも学びました。
- ・お話を聞いて、しっかりした進学目標をきめてチャレンジしたいと思いました。ただ勉強時間を増やすのではなく、自分の苦手なところをどうすれば得意に変えられるか、自分の得意なところをどうすれば伸ばせるかなど「何をどのように努力するか」ということを忘れずにやりたいと思います。「人生は一度しかない」ので自分のやりたいことを見つけて頑張りたいです。今日は心に残る言葉がたくさんある講演でした。
- ・「自分は今までに将来のために行動してきたのか」「自分はいったい何が得意でどんなことができるのか」など、いろいろ考えさせられました。今まで自分は将来が不安だと言いながらも、そのために自分から行動したことが全然ありませんでした。そんな情けない自分に今回気づかされました。自分を変えるためにも、これからはもっともっと行動し、自分から進んでいきたいと思います。遅いスタートかもしれないけれど、何もしなかったら絶対そのときの自分に後悔すると思います。自分の人生を良いものにするために頑張っていきます！！

◇SURPRISE

- ・一番印象的だったのは「surprise」という言葉でした。自分も周りを驚かせるような選手になりたいし、本気で努力すれば自分自身をも驚かせるような選手になれる可能性があるのではないかと期待が湧き、もっと頑張りたいと思いました。行き詰まったら原点に戻ればよいと分かりました。

◇FOCUS

- ・自分もスポーツをしているのでスランプや怪我の辛さなどが分かります。世界の大舞台で活躍された為末さんの言葉一つ一つに感銘を受けましたが、その中で今後の人生に於いて糧にしたい言葉は「意識と努力にfocusする」です。それは勉強やスポーツ、私生活においても通じるすばらしい言葉だと思います。自分も為末さんのように壁を乗り越えて大舞台で活躍できる逸材になります。

《生徒との歓談》



為末大氏は講演会后、陸上部員、新聞部員との懇談や取材に応じてくださいました。

試合前の緊張やモチベーションの保ち方を始め、為末氏の今後のスポーツを通じた先駆的な社会活動などについて話が及び、なごやかなひとときとなりました。

